



社会福祉法人
松本市社会福祉協議会様

入浴列島だより第八回は、長野県松本市の社会福祉法人松本市社会福祉協議会様をご紹介します。

松本市社会福祉協議会様は、平成二年から訪問入浴介護事業を開始され今年で二十六年になります。

現在、移動入浴車を二台所有。うち稼働は一台との事ですが、スタッフ総勢八名で一日五〜六件のサービス提供を行っています。

今回は、訪問入浴介護サービス提供責任者の浅輪智美様、大月仁美様、石川国彦様にお話を伺いました。



社会福祉法人松本市社会福祉協議会
大月仁美様 (写真左)、浅輪智美様 (写真右)

長野県松本市

松本市は、西に槍・穂高連峰、東に美ヶ原高原など日本を代表する雄大な山々に囲まれ豊かな自然環境や、歴史と文化・伝統に恵まれた長野県中・南信の基幹都市として発展しています。国宝松本城を中心とする旧城下町で旧開智学校(重要文化財)などの歴史的建造物が多く残っています。

また、セイジ・オザワ 松本フェスティバルの開催、全国に(一部海外にも)広がるスズキ・メソッドなど、音楽に対する取組も盛んで、国内の老舗ギターメーカーのモーリスも松本市を拠点としています。

自然豊かな都『岳都』、音楽の盛んな都『楽都』、学問に力を入れた都『学都』を合わせて『三ガク都』を標榜しており、大変活気ある都市です。



他職種との連携の中で

訪問入浴介護の果たす役割

松本市社会福祉協議会様における訪問入浴のご利用者様は、最近高度化が進み、看取りの場面が多くなってきたとの事です。まずは看取りの対応について、お話をうかがいました。

「ご利用者様を在宅で看取るという事は、主治医の先生や訪問看護等、様々な職種の方々と連携、情報の共有を図っていくかなければなりません。私達が重視しているのは、担当者会議です。様々な職種の方々と情報の共有を図るためには、積極的な情報のやり取りが必要です。そのため意識的に訪問入浴の私たちスタッフから情報発信をするように心がけています。また、医療職の方々が同席する事が多いため、担当者会議には看護師が出席するようにしました。そうする事でその場で必要な処置の確認や、ご利用者様の情報を共有出来るようにしています。」

コミュニケーションが生んだ

スタッフの意識の変化

松本市社会福祉協議会様の在宅での看取りの説明から、ご利用者様からの情報収集を非常に重要視されているのが分かります。そのことについて詳しくお話を伺いました。

「ご利用者様の状況を理解し、情報を取得するためには、私達がご利用者様に関心を持たなければなりません。スタッフには常にそのような気持ちで、ご利用者様とコミュニケーションを取るように伝えています。」

浅輪様にはコミュニケーションの重要性について、お話しいただきました。

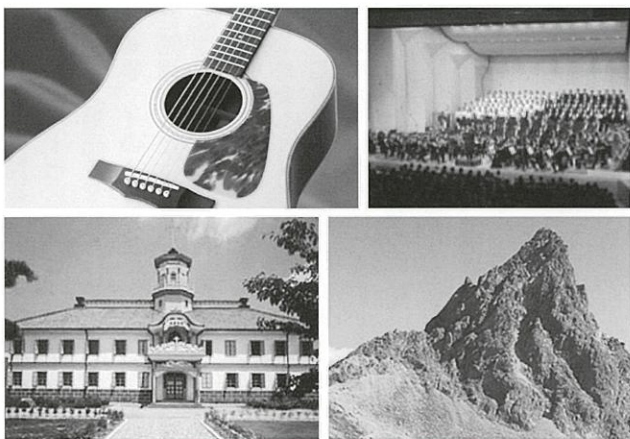
「コミュニケーションは、訪問入浴にとって非常に重要です。私達はコミュニケーションを通じて、ご利用者様の情報を出来る限り収集するよう考えています。一般的な会話の中から、水分補給はされているのか、食事、排便の状況はどうか等、収集した情報によってその日のサービス内容を変更します。また、ご利用者様ご本人だけでなく、ご家族にも入浴介護のお手伝いを促すことなどを行っております。そこで話した内容を事業所内で共有し、必要があれば担当者会議で発信します。ご利用者様を理解しようとする、自然とご利用者様が何を望んでいるのかを考えるようになり、そういう意識でサービスに臨むと、自然と他のスタッフの意識にも変化が起こってきます。」

浅輪様は、事務所内に起こった変化についても話されました。

「大きな変化が見られたのは非常勤スタッフの意識です。非常勤スタッフは、常勤スタッフと比較して、情報の共有が希薄になりやすいため、移動時間を活用して申し送りをしていました。すると、サービス後の報告が円滑に行われるようになりました。今では申し送りのノートを作成して、移動時間ではなく自

三ガク都を標榜する松本市

写真は、松本市、松本観光情報ポータルサイト、モーリスHPより引用



主的に出発前にミーティングを開くまでにな
っています。

湯温や洗う順序、入浴時間等、入浴は個人
のこだわりが多く出ます。ですが、私達の誰
がサービスに入ってもご利用者様に迷惑を
おかけする事はありません。」

スタッフも必ず

入浴介護体験

松本市社会福祉協議会様は、事業所内研修
を定期的に実施されているとの事で、お話を
伺いました。

「研修では、常勤・非常勤問わずに持ち回り
でご利用者様を決めて、必ず全員が入浴を
行うようにしています。ご利用者様の立場が
分からなくては、ご利用者様に心を開いてい
ただく事は出来ません。」

このお考えが、ご利用者様の心を開き、ご
利用者様やご家族に信頼されるサービスにつ
ながっているのではないかと感じさせられま
した。



松本市社会福祉協議会様の研修風景

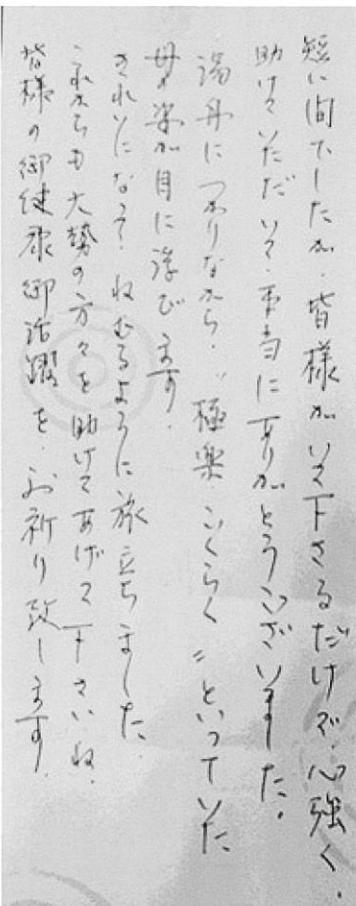
今後の展望

最後に、今後の展望について伺いました。
「ご利用者様の住まいも多様化しており、サ
ービス付高齢者向け住宅等へサービスへ何う
事も増えています。」

今後あらゆる状況でもサービスを提供でき
るように技術、スキルを身に付けておくこと
は必要だと思います。ですが、ご利用者様一
人一人に合わせたサービスを行っていく考え
方は変わりません。これからもご利用者様の
立場に立った、サービス提供を行っていきま
す。

また、より細やかにご利用者様に対応して
いくために、他の職種の方々との関係をもっ
と深めていかなければならないと思います。
そのためには私を含めて、スタッフ一人ひと
りをもっと知っていただく必要があると思ひ
ます。毎月、実績をケアマネジャーにお持ち
する時は手持ちをしたり、サービス付き高齢
者向け住宅等でサービスを提供したら、高齢
者住宅の職員の方々へご挨拶するように心掛
けています。全ては私達の顔を覚えていた
くためです。人との関わりの中で私達のサ
ービスは存在します。」

浅輪様はそう仰ると、ご利用者様のご家族
からいただいた手紙を見せてくださいました。



ご利用者様のご家族が、松
本市社会福祉協議会様へ
宛てられた手紙。



ご協力いただきました松本市社会福祉協議
会の皆様（写真）。
ご協力誠にありがとうございました。皆様の
さらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「この手紙を見る度に、私達は常にご満足い
ただけるサービスを提供し続ける事、そして
自力で入浴出来ない方々がまた沢山いらっし
やる事、そのような方々が訪問入浴介護を
ご活用いただけるように普及、啓蒙してい
かなければならないという事を強く感じます。
昨年はご依頼を確実に受けていくために、入
浴車を新しく入れ替えてブログで紹介しまし
た。これからも訪問入浴介護を拡げて行く方
法を考えていきたいと思います。」
その力強いお言葉を聞いて、松本市社会福
祉協議会様はこれからもご利用者様の立場に
立ったサービスを、提供されていかれる事を
確信いたしました。

国際福祉機器展にデベロは出展いたします

開催期間 平成28年10月12日(水)～14日(金) デベロ出展ブースは東6ホール 6-21-05



写真は昨年展示の様子です



今年も東京ビックサイト（東京
都江東区）にて開催される国際福
祉機器展に、デベロも出展いたし
ます。

新商品等を実際に手に取ってご
確認、ご体感いただく非常に良い
機会です。

皆さまも、ぜひデベロブースま
でお立ち寄りください。